

高浜地区防災計画

～災害に強いまちづくりをめざして～



高浜総合公園

高浜会議

(高浜地区連合自主防災会)

令和8年3月

目 次

1 地区防災計画の概要、基本方針等	 1
2 地区の概要	 1
3 地区の災害特性	 4
4 平常時の活動	 8
5 災害時の活動	13
6 災害時の要援護者の支援の取組み	14
7 防災マップ	14
8 計画作成後の研修、訓練の考え方	15
9 年間スケジュールの作成	15
10 資料	16

1 地区防災計画の概要、基本方針等

○ 地区防災計画とは

地区防災計画は、私たちが生活する地区の人たちの命や財産を災害から守るため、地区の特性や想定される災害リスクに応じて、平常時の防災活動や災害時の避難行動などについて、地区のみんなで考え、話し合いを重ねながら作成する、防災のための計画です。

○ 計画の基本方針

- ・ 住民一人ひとりが防災を「自分ごと」として捉える地域をめざす
- ・ 地区内の人的被害「ゼロ」をめざす
- ・ 防災活動を通じた地域コミュニティの活性化をめざす

○ 合言葉

「逃げろ！！」

○ 計画規模・構成員

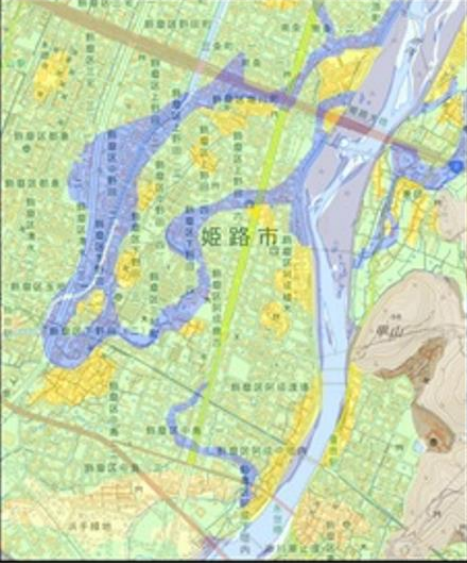
高浜地区に住まれている方及び事業所

2 地区の概要

○ 自然特性

高浜地区は、二級河川市川の本流が作り出した、氾濫平野が広がっている標高 10m以下の地域に位置しています。

地区の東側の端を二級河川の市川が、中央から西側を野田川がそれぞれ南北に流れており、広範囲に浸水想定区域が広がる地区です。

	配色	地形分類	土地の成り立ち	地形から見た自然災害リスク
		氾濫平野・海岸平野	起伏が小さく、低くて平坦な土地。洪水で運ばれた砂や泥などが河川周辺に堆積したり、過去の海底が干上がったりしてできている。	河川の氾濫に注意。地盤は海岸に近いほど軟弱で、地震の際にやや揺れやすい。強い地震による液状化発生傾向は海岸平野で強く、氾濫平野ではやや強い。沿岸部では高潮に注意。
		自然堤防	現在や昔の河川に沿って細長く分布し、周囲より0.5～数メートル高い土地。河川が氾濫した場所に土砂が堆積してできる。	洪水に対しては比較的安全だが、大規模な洪水では浸水することがある。縁辺部では液状化の発生傾向が強い。
		旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後には砂や泥などで埋められてできる。	河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の揺れが大きくなりやすい。特に埋立（盛土）した地域では液状化の発生傾向が非常に強い。
		砂州・砂丘	主に現在や昔の海岸・湖岸・河岸沿いにあり、周囲より高い砂礫質な土地。波によって打ち上げられた砂や礫、風によって運ばれた砂が堆積することでできる。	通常の洪水では浸水を免れることが多い。強い地震による液状化の発生傾向は砂州ではやや強く、砂丘ではやや弱い。砂丘縁辺部では非常に強い。

【出典】国土地理院地形図

○ 社会特性

高浜地区は、北部を国道２号姫路バイパスが、南部を山陽電気鉄道本線が、それぞれ東西に通っています。

現在姫路バイパス以南の区画整理が進み道路整備や公園建設により、新しい市街地が誕生しています。かつては農村地帯であったが、現在では昔の面影を残す所は少なくなりつつあります。

また、古くからの集落と新興住宅地が混在し、古くからの集落は高齢化が進み、高齢者世帯が増加している地域もあります。

○ 過去に起こった高浜校区（地区）の災害

種別	件数	被害件数	被害内容
内水氾濫	９件	５件	床下浸水・道路冠水
外水氾濫	３件	—	市川増水
高 潮	１件	—	—

令和７年６月３０日実施 「高浜地区防災計画 アンケート結果」 から抜粋

過去発生した災害は、台風などの降雨による内水氾濫や市川増水による氾濫危険、高潮に伴う海水の市川遡上があり、それらによる被害は、「床下浸水」及び「道路冠水」となっています。

～たかはまコラム1～ そのとき何が・・・

ここに近年の高浜での貴重な体験を記す。

2011（平成23年）年9月3日 18:41 けたたましい携帯の音で緊急メールの受信を知る。

自治会役員、民生、消防団は活動を開始。15町の自治会長、民生委員との協働で高齢者避難、住民避難の呼びかけを開始した。

19:30、20:00 と計2回、避難勧告の広報車が呼びかけるが住民の行動は緩慢。

時間は矢のように過ぎ、21:00 避難所へ寄る。

避難者が続々と集まって来られ、避難所受付での受付名簿の記載が始まっていた。今更ながらに老人クラブ有志の機転に感謝したい。

21:30 市川の水位は路面すぐそこまでに増水、堤防には漏水箇所を発見。

「市川が氾濫するかも知れない！」

役員で手分けして各戸を訪問、避難呼びかけを強化。23:00 高浜小体育館への避難者特定を急ぐ。

翌 AM4:00 広報車による避難指示、不安な闇が続く、一転 6:11 避難勧告解除。

長い夜が明け何事もないように日常が始まった。

このことは今もこの地域に多くの教訓を残してくれたように思う。

- ・自治会では何が出来たか？
- ・遅滞なく連絡は取れたか？
- ・避難所の運営は出来たか？

今、多くの反省を元に^{じらい}爾来10 有余年の訓練経験を活かして「地区防災計画」に取り組む。

我々は「稲むらの火」を灯せるか？

文責：長田秀人

「稲むらの火」とは・・・

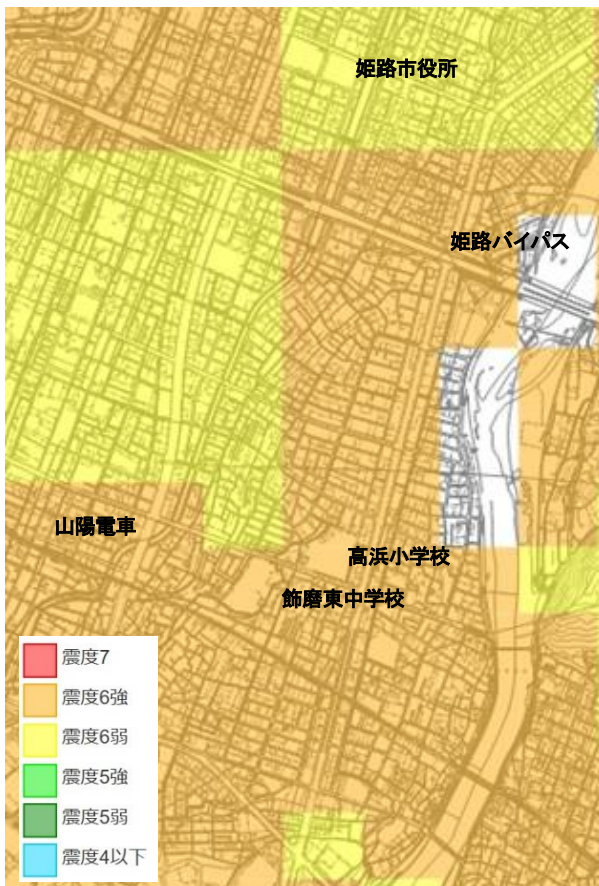
1854年に起こった安政南海地震で大津波が広村（現在の和歌山県広川町）を襲ったが、村の濱口梧陵氏が「稲むら」に火をつけ、逃げ遅れた村人を高台に導いた。

3 地区の災害特性

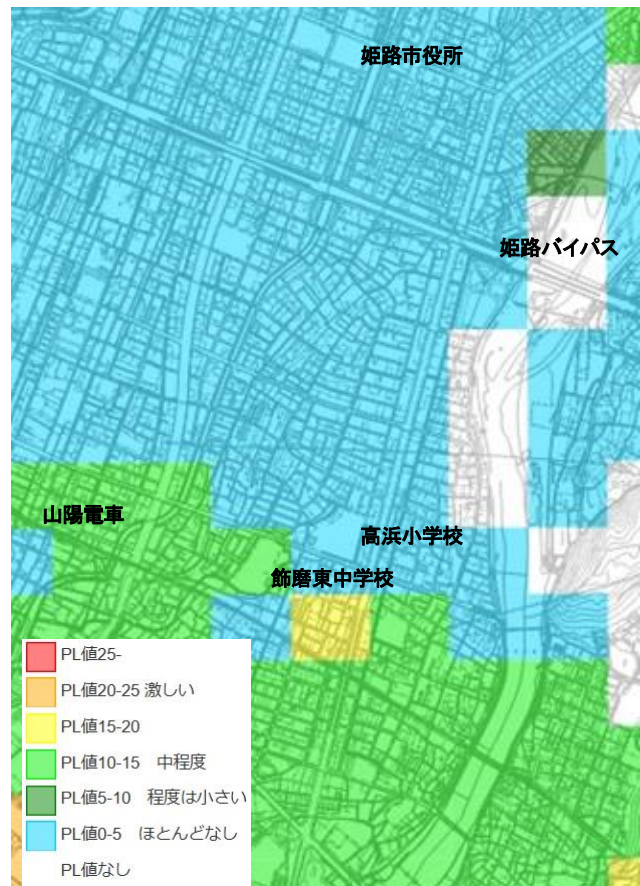
○ 地震災害リスク

- ・ 山崎断層帯地震 高浜地区：想定震度6強
- ・ 南海トラフ地震 高浜地区：想定震度6弱
津波浸水区域（下野田2丁目の一部）

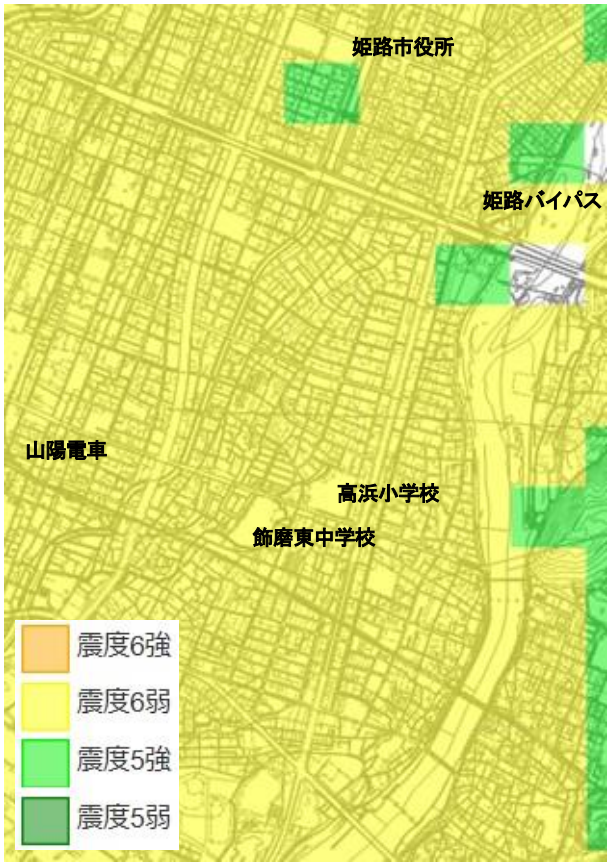
山崎断層帯地震 震度分布図



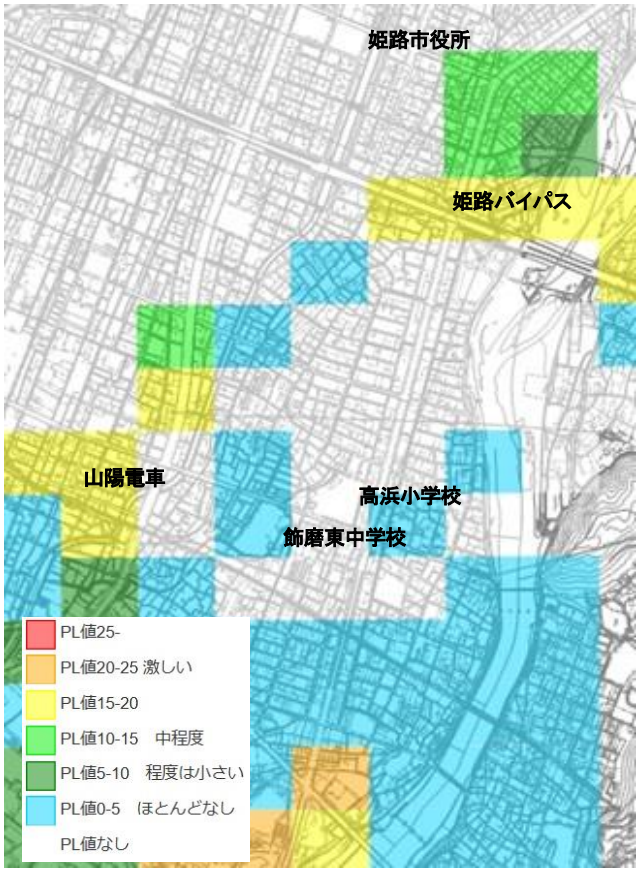
山崎断層帯地震 液状化危険度分布図



南海トラフ地震 震度分布図



南海トラフ地震 液状化危険度分布図



南海トラフ地震 津波ハザードマップ及び津波避難場所
(野田川流域)



(市川流域)



○ 水害リスク

☆ 外水氾濫（市川水系）

大雨による、近くを流れる河川の増水で、破堤・越水・溢水などで地域の広範囲で浸水する恐れがあります。

・L1（計画規模）

市川で24時間に247mm以上の雨が降った場合
概ね100年に1回程度起こる降雨）：最大浸水深3.0～5.0m

・L2（想定最大規模）

市川で24時間に617mm以上の雨が降った場合
概ね1000年に1回程度起こる降雨）：最大浸水深5.0～10.0m
家屋倒壊等氾濫想定区域：野田川、市川沿い

洪水土砂災害ハザードマップ

L1：計画規模降雨



L2：想定最大規模



家屋倒壊等氾濫想定区域

近くの堤防が決壊等した場合に、洪水氾濫もしくは河岸浸食によって一般的な建築物が倒壊・流出する危険性が高い区域

☆ 内水氾濫（低地の排水不良による浸水）

近年、頻発する1時間降水量が100mmを超えるような短時間の局地的大雨や集中豪雨では、道路側溝や下水道、水路の排水能力を上回り、低地の家屋などが浸水する恐れがあります。

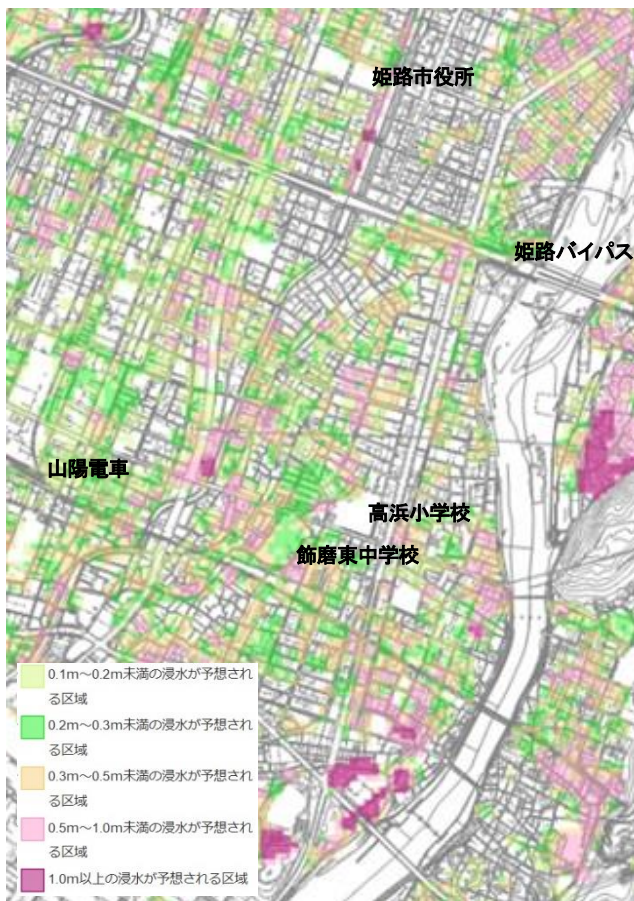
- ・ 高浜地区 浸水深： ～1 m以上

☆ 高潮

台風接近などによる高潮により、海水が堤防などを乗り越え地区内に流入し、家屋などが浸水する恐れがあります。

- ・ 高浜地区 浸水深： ～3m

内水ハザードマップ



高潮ハザードマップ



○ 土砂災害リスク

地区内に土砂災害警戒区域の指定はありません。

4 平常時の活動

！ 自 助(各家庭での取組み)

○ 住民一人ひとりが防災を「自分ごと」として捉える地域をめざした活動

地区内の住民や事業者を対象に、防災を「自分ごと」として認識してもらうため、平素から、次の項目について周知及び対策の実施を消防団、ひめじ防災マイスターとの連携や、姫路市市政出前講座などを活用し、推進していきます。

- ✓ 避難カード「命のパスポート」を活用した、避難のタイミング、避難経路、避難場所の確認
- ✓ 災害時における、家族間の連絡体制の確立
- ✓ 住宅、事業所における、安全対策の実施（建物、家具固定、ブロック塀の強化、住宅用火災警報器、感震ブレーカーなど）
- ✓ 備蓄品や非常持ち出し品の準備（食料等のローリングストック）

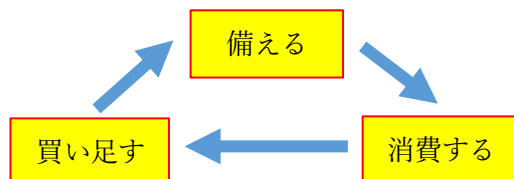


参考：気象庁ホームページ

備蓄品の例・・・

非常食、水(1人1日3L)、毛布、簡易トイレ、懐中電灯、携帯ラジオ、貴重品、携帯電話等の充電器・予備バッテリー、ヘルメット、タオル、衣類、マスク、消毒液、体温計、スリッパ、熱中症対策用品 など

ローリングストックとは…



①最初多めに購入する



②賞味期限の短いものから使う



③消費した分を補充し、一定量に保つ

- ✓ 「初期消火」「応急手当」などの知識の普及
- ✓ 水の浸水防止対策
例：ゴミ袋と段ボール箱を使った浸水防止

！ 共 助(地域の取組み)

○ 単位自主防災会の活動

- ✓ 班体制の見直し、班の役割の確認
- ✓ 危険個所の点検、調査
- ✓ 避難行動要支援者に対する、住民による支援体制づくり
- ✓ 地区内の被害状況及び生き埋めなど救助が必要な方の早期に把握する体制づくり
- ✓ 防災意識の向上・知識の習得に役立つ勉強会の実施（年1回）
- ✓ 備蓄品及び防災倉庫の整理、管理
- ✓ 一時避難場所の見直し
例：地域内事業所や地元公民館などの活用

○ 連合自主防災会の活動

- ✓ 連合自主防災会の規約見直し
- ✓ 連合自主防災会の防災計画見直し
- ✓ 定例会議開催（年1回）
- ✓ 防災訓練、勉強会、施設見学会等の実施
- ✓ 各自治会で開催する防災訓練、防災意識・知識の向上を図る勉強会への協力・支援、情報提供、または収集
- ✓ 防災資機材の点検と作動確認
- ✓ 備蓄品及び防災倉庫の整理、管理
- ✓ 日頃からどのような備えをしておくかの検討

- ✓ 情報弱者に配慮した情報伝達体制づくり

例：避難情報が発令された際に、自治会放送設備を活用した「呼びかけ」や近隣者による「声かけ」を行うなど

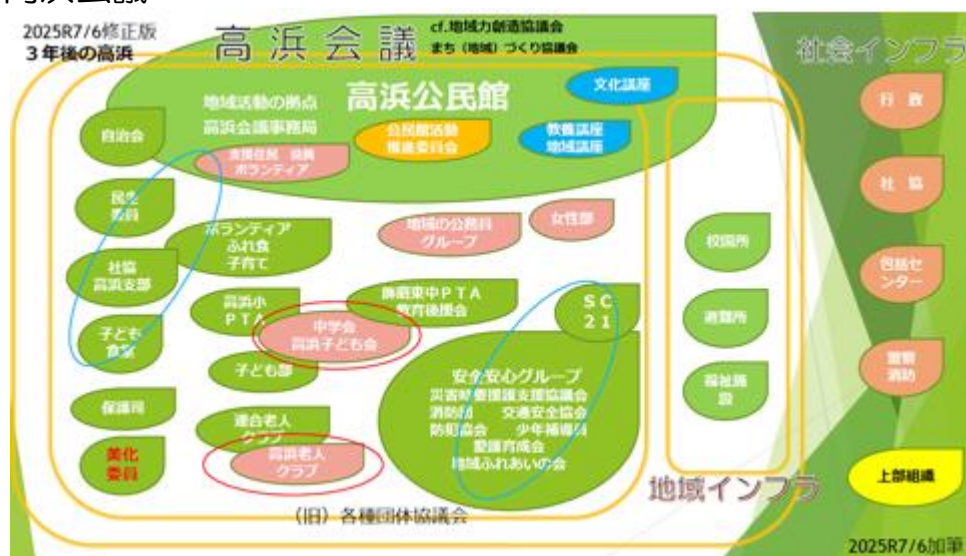
○ 防災活動を通じた地域コミュニティの活性化

大規模な災害が発生した場合や、平時の防災訓練などを行う場合は、地域の人々や防災関係機関・団体の参画や協力、連携が必要です。特に、大規模災害発生時には、自主防災組織を中心とした地域住民・事業所などの総力を結集した防災活動が求められます。

そのため、地域住民、地域事業所との協働による防災活動を実施し、「防災活動を通じた地域コミュニティの活性化」を推進していきます。

☆ 防災に対する共通認識を持つための会議や合同訓練などの実施

- ✓ 高浜會議



高浜会議のイメージ図

- ✓ 高浜地区災害時要援護者支援協議会
- ✓ 消防団、学校、公民館
- ✓ 社会福祉協議会、地域包括センター
- ✓ 近隣校区の自主防災組織
- ✓ 姫路市危機管理室 など

☆ 大災害が起こった際の協力要請ができる協力体制づくり

- ✓ 病院・福祉施設

- ✓ ガソリンスタンド
 - ✓ スーパーマーケット・コンビニ
 - ✓ 建築・土木事業所
 - ✓ ドローン運用事業者
 - ✓ 自動車販売店
 - ✓ アマチュア無線従事者
 - ✓ バイク・自転車愛好家
- など

○ 将来に向けて継続した活動を実施するために

☆ 次世代の地域防災を担う人材の育成

災害時は、多くの方の力が必要になります。

自主防災会の役員のみでは全てに対応することはできません。加えてリーダーは数年で交代します。

次代の防災活動を含め、地域活動の担い手を育成していきます。

- ✓ 小学生・中学生の防災訓練、勉強会への参加
- ✓ ひめじ防災マイスター認定講座の受講（地区内の認定者の増）

☆ 女性参画の推進

地域の防災力の向上を図るためには、地域における生活者の多様な視点を反映させていくことが重要です。そのためには、男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を進める必要があります。

自主防災組織の編成にあたっては、女性の意見が十分に反映されるよう、女性の参画を推進し、リーダーに複数の女性が含まれるようにすることや、自主防災組織の特定の活動（避難所における食事の準備など）が性別や年齢などによって役割を固定化することがないように取り組んでいきます。

☆ 防災体制の見直し

メンバーの災害時における役割及び関係機関との連携促進など実践を想定した活動を検討していきます。

また、「防災訓練」も定期的に見直しを行い、時節に合ったテーマで取り組んでいきます。

～たかはまコラム2～ 避難所の不安

阪神・淡路大震災や東日本大震災で亡くなった方の男女比では、男性よりも女性の方が約 1,000 人多かった（家庭的責任が女性に集中）。また、大きく報道はされていないが、阪神・淡路大震災や東日本大震災では性暴力の事案があった。それを教訓として、熊本地震では性暴力抑止のためにチラシの配布をしていたにも関わらず事案はあった。令和6年能登半島地震では、啓発活動が早くからあり、各避難所で多くの配慮を行った。

★避難所生活の問題点（具体例）

・プライバシーの確保

現状	対応例
間仕切りがない・衣服の脱衣の際に周りから見える	見えないように間仕切り・個別テント
簡易脱衣所・簡易トイレなど使用したいけど、カギがない	カギを付ける
生理用品や下着の配布の際、生理中は多く必要になるけど言いにくい	女性の窓口・女性目線で配布の仕方を工夫
授乳スペース・赤ちゃんに必要な物資が少ない	女性の窓口・女性目線でスペースの工夫

・性暴力

実際	解決策
被災者に支援したお礼として強要される	相談窓口・啓発活動等
ボランティア同士の悪ふざけでされた	
避難所で着替えをしていたらのぞかれた	
車いす用多目的トイレのスペースが広いので、連れ込まれていたずらされる	場所や使用する時間帯を工夫等

災害発生後は、今までの生活とは全く違う生活が突然始まる。避難生活は我慢しなければならないことも増えるが、ちょっとした配慮で我慢しなくてもいい事もある。災害後の生活がより安全で安心になることを願って、避難所運営会議に女性が参加し、女性目線で感じることを提案できることが大事だと考える。

文責：中玉利 展子（防災士・思春期相談士）

5 災害時の活動

！ 自 助(各家庭での活動)

○ 地震

地震の揺れを感じたら、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、まずは自分の身を守ります。時間があれば、ドアを開けるなど逃げ道を確保します。

大きな地震の場合、ラジオや市の防災行政無線、自治会のエリアトーク、自治会放送などで情報を入手し、自治会（自主防災会）で決めた一時避難場所に、近所の方にも声をかけながら避難します。

避難する際は、ガスの元栓や火の元を確認し、また、電気ブレーカーを必ず切り、食料等必要なものを持って避難します。

○ 風水害

事前に決めた避難の方法（自宅での避難、地域の一時避難場所（自治会館等）、近隣のマンション、緊急避難場所等）により避難します。避難する際は、合言葉の「逃げろ」を家族や近所の方に伝えながら避難します。

また、自宅から離れて避難する際は、食料等必要なものを持って避難します。

！ 共 助(地域の活動)

○ 単位自主防災会

単位自主防災会は、各班の班長の指示のもと、次の災害対応活動を行います。

- ✓ 情報伝達
- ✓ 消火活動
- ✓ 救助活動
- ✓ 応急救護活動
- ✓ 避難誘導
- ✓ 地域の一時避難場所の運営

○ 連合自主防災会

連合自主防災会の役員は、高浜公民館に集合し、地域の被害状況の確認と

市との連絡調整を行います。情報から今後の災害対応について指示します。

市が指定する避難所の開設は、市の避難所担当職員、施設管理者が行いますが、施設の安全確認や避難者の受け入れなど人の力が必要になりますので、連合自主防災会からも会員を派遣する必要があります。

姫路市の地震時の避難所開設基準

震度5強 … 高浜小学校(拠点避難所)

震度6弱以上… 高浜小学校(拠点避難所)、
飾磨東中学校、高浜公民館

避難生活が長引く可能性がある場合には、速やかに避難所運営委員会を立ち上げ、避難者全員で避難所運営を行います。

6 災害時の要援護者の支援の取組み

災害時には高齢者や障がいのある人、子どもなど人の助けを必要とする方を災害から守るため、みんなで協力しながら、支援を行っていきます。

そのためにも、普段から防災訓練や地域のイベントなどに一緒に参加し、地域で顔の見える関係づくりをしていきます。

普段は、高浜地区災害時要援護者協議会を中心に次のような活動を行います。

- ✓ 要援護者の避難支援方法の決定
- ✓ 要援護者の車いすの必要可否の把握
- ✓ 要援護者に対する個々の支援者の選定
- ✓ 要援護者と支援者の顔の見える関係づくり

7 防災マップ

防災マップは地域の情報が一目でわかるものです。

定期的なまち歩きを行い、より正確で新しい情報に修正していきます。

(10 資料「別添1」参照)

8 計画作成後の研修、訓練の考え方

訓練は、実務的な訓練とイベント型の訓練など、その年の状況に応じて実施します。訓練等を実施し、当計画の修正が必要な場合は高浜会議において修正します。

○ 啓発活動

- ✓ 防災講演会
- ✓ HUG を使った防災講座

○ 防災訓練

- ✓ 避難所運営訓練
- ✓ 避難訓練
- ✓ 救助訓練

9 年間スケジュールの作成

毎年、連合自治会・単位自治会の年間スケジュールを作成する際に、防災活動のスケジュールも盛り込みます。

防災活動は単独で行うだけではなく、他のイベントや集会などの際に行うことも考えましょう。

(年間スケジュールの例)

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | 会員名簿・要援護者名簿等の更新、総会、年間活動計画の検討・作成 |
| 5月 | 防災まち歩きでの避難経路の確認・点検 |
| 9月 | 家具の固定や備蓄に関する会員アンケート |
| 10月 | 防災資機材の点検 |
| 11月 | 自主防災訓練の実施 |
| 1月 | 防災講習会・講演会の実施 |
| 3月 | 各班単位の検討・反省会、次年度活動の意見出し |

10 資料

- 【別添１】 防災マップ
- 【別添２】 班の役割
- 【別添３】 避難所（市指定緊急避難場所及び市指定避難所、一時避難場所）
- 【別添４】 防災資機材等（コミュニティ防災倉庫、指定避難所、自主防災会）
- 【別添５】 「高浜地区防災計画～災害に強いまちづくりをめざして～」
作成の歩み